

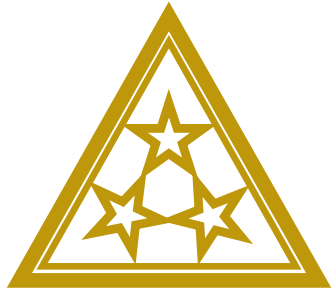
平成18年3月期

決算説明会

株式会社 中山製鋼所

NAKAYAMA STEEL WORKS,LTD.

平成18年5月15日



本日も説明の内容

1. 当社鉄事業の概要 p 1 ~ 3
2. 業績推移および18年度見通し p 4 ~ 9
3. 当社の事業構造の中期的課題 p 10 ~ 16
4. 新商品 (NFG) p 17 ~ 19
5. 新規事業について p 20 ~ 21
6. 平成18年3月期決算のご説明 p 22 ~ 28

1. (株)中山製鋼所(グループ)の概要

平成18年3月末現在

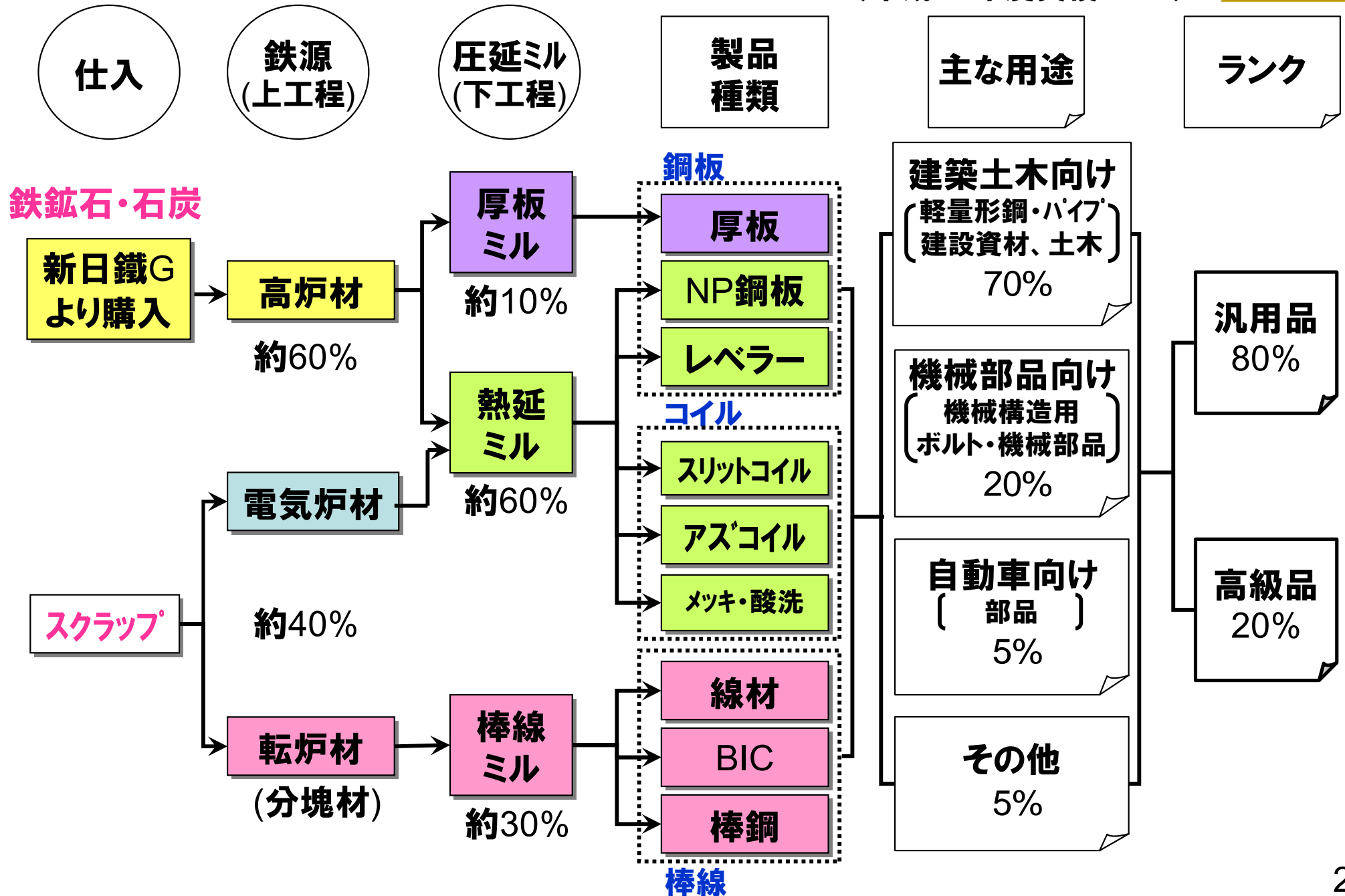


- 設立 : 大正12年(1923年)12月 創立 82年
- 所在地 : 大阪市大正区船町1-1-66
- 従業員数 : 当社 835名、グループ全体 1,780名
- グループ会社 : 国内 7社(連結子会社) 44ヶ所
 <鉄鋼>国内拠点 41ヶ所
 (内、製造拠点 11)
- 資本の状況
 - ・株主資本 668 億円
 - ・発行済み株式総数
 約 131 百万株



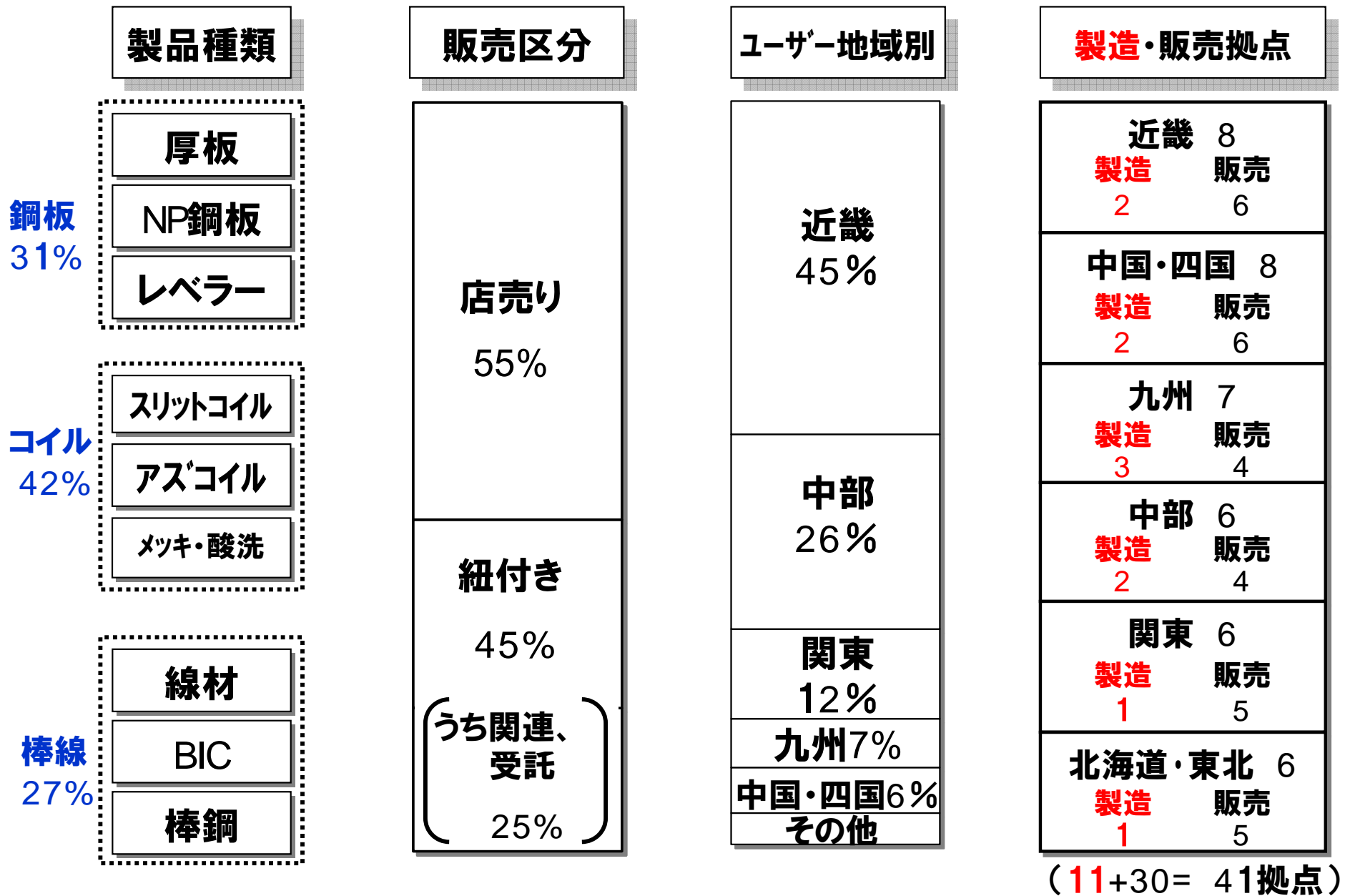
2. 当社の生産構造と製品の明細

(平成17年度実績ベース)

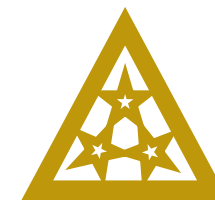




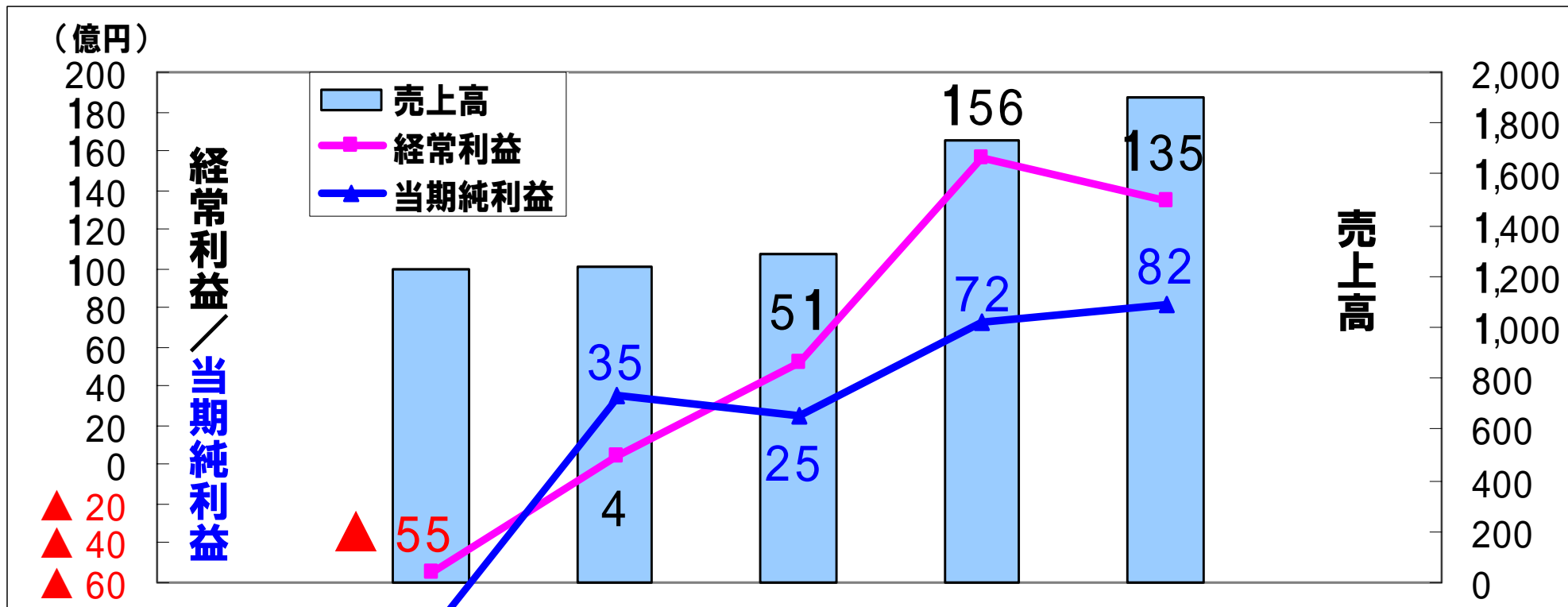
3. 当社の鉄鋼製品の販売先について



4-1. 前中期計画期間の連結業績推移



(H14- 17年度実績)



当期▲212

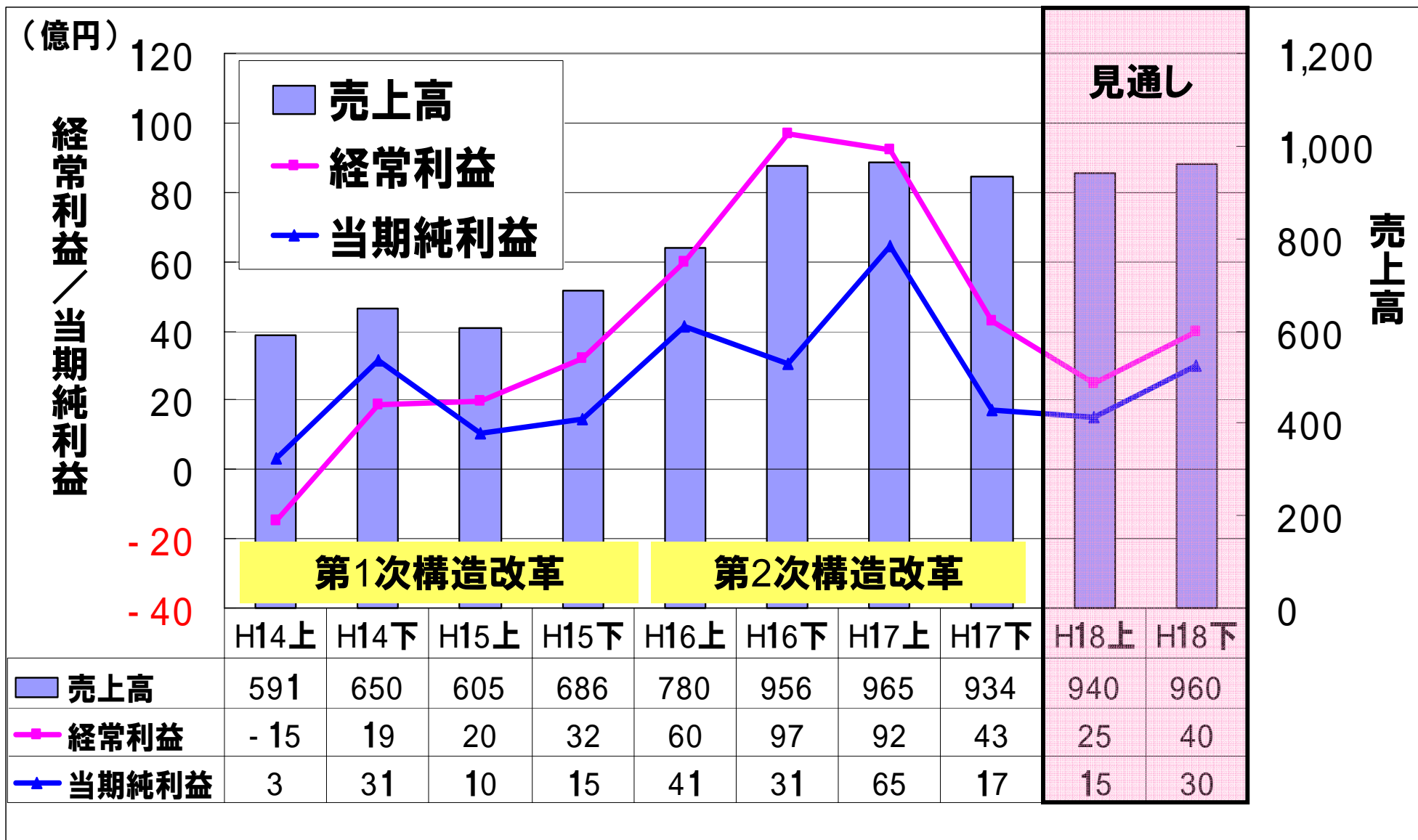
← 中期計画期間 →

	H13	H14	H15	H16	H17
株主資本比率	14.7%	20.2%	21.5%	25.8%	30.6%
(有)負債	1,376	1,027	966	853	744
D/ Eレシオ	3.5	2.4	2.1	1.5	1.1

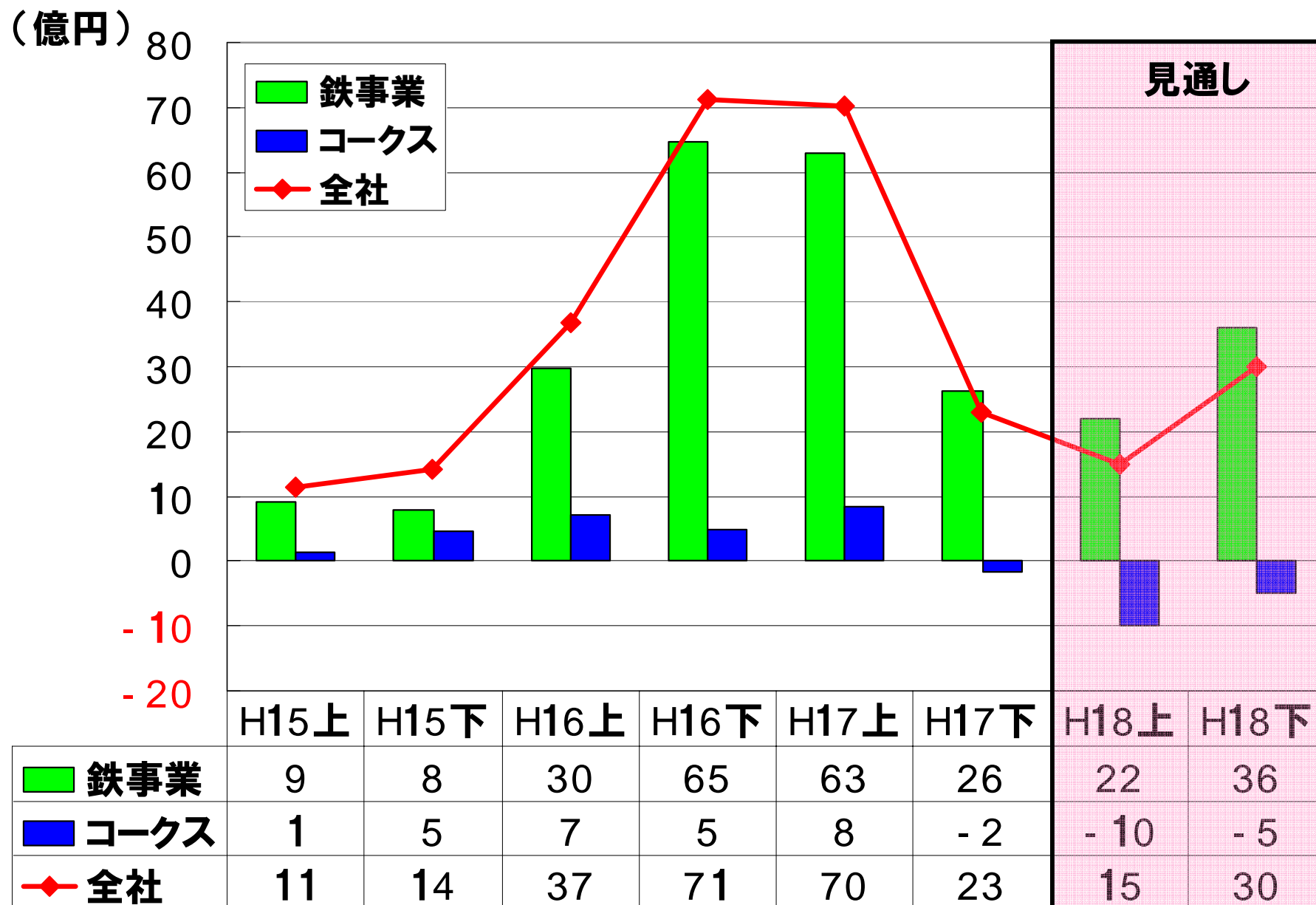
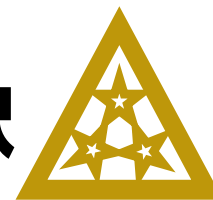
4- 2. 前中期計画期間の連結業績推移



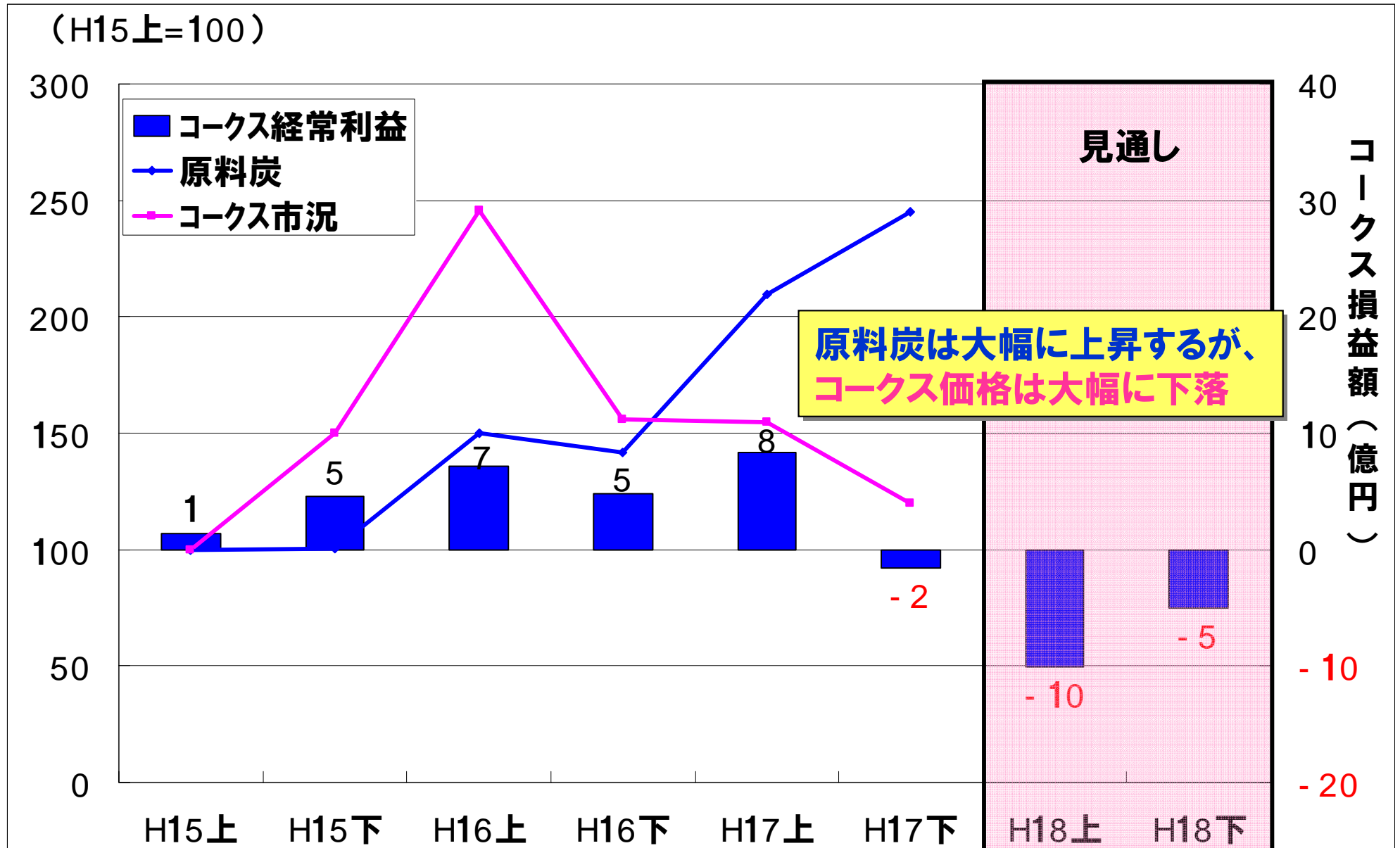
(H14- 17年度実績、H18年度見通し)



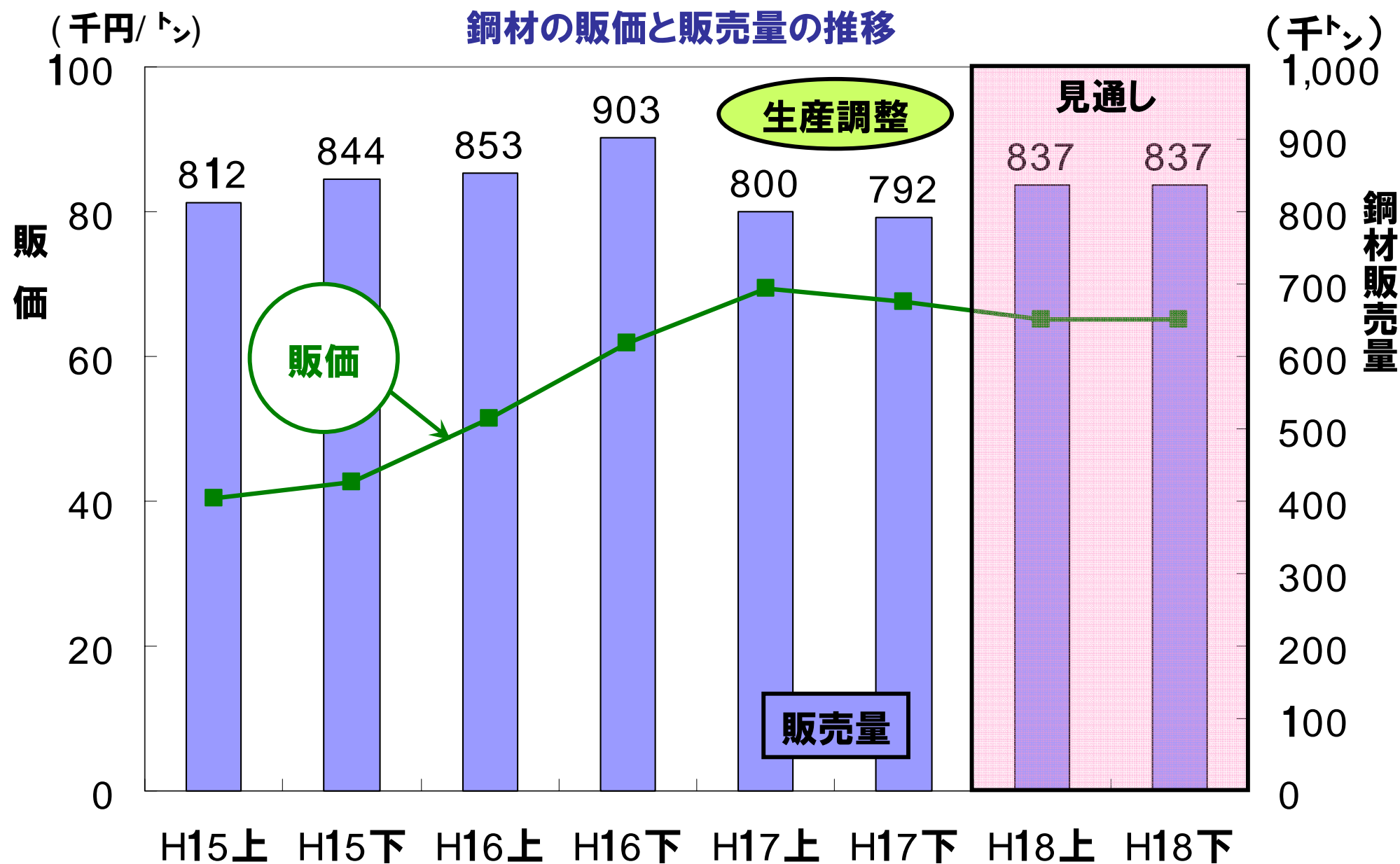
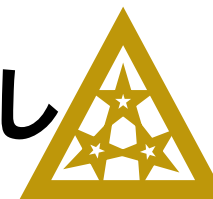
4- 3. <単独> 経常損益の鉄事業・コークス事業別内訳



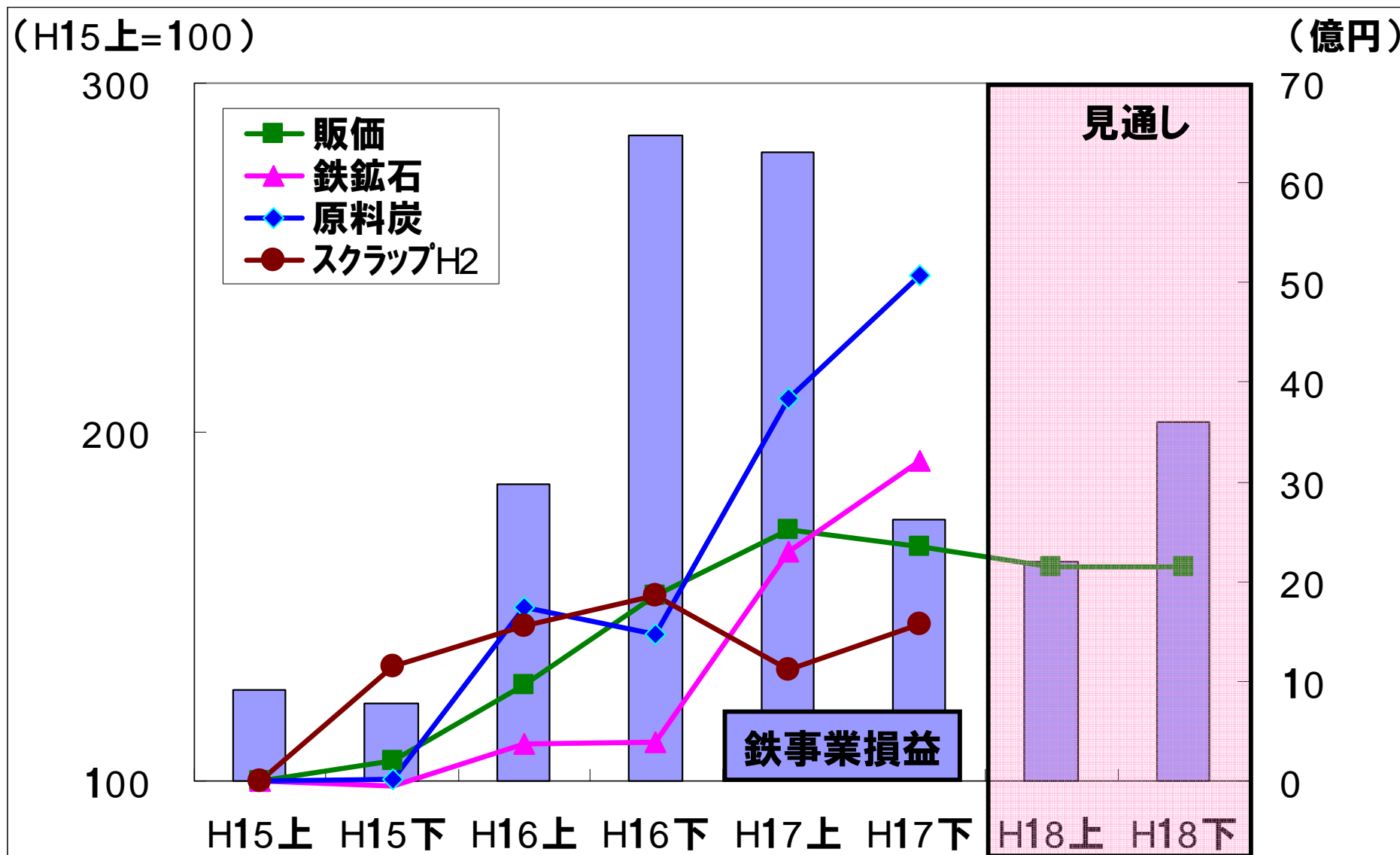
5. コークスと原料炭の市況推移



6- 1. 鉄事業損益の悪化要因と18年度への見通し



6- 2. 鉄事業損益の悪化要因と18年度への見通し



出所:貿易統計(財務省)輸入金額/輸入数量、日本鉄源協会

7. 当社の事業構造の問題点・中期的課題



粗鋼(上工程)

購入鉄源	
・新日鉄高炉材	60%
自社鉄源	
・転炉材(分塊)	20%
・電気炉材	20%

販売先

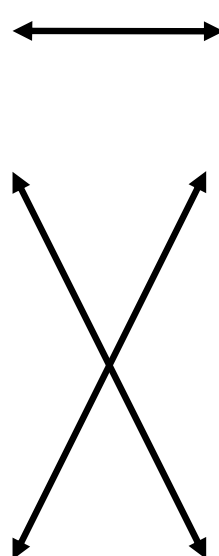
一般店売り	55%
紐付き	45%

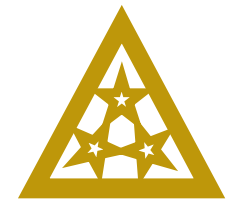
鋼材(下工程)

熱延ミル(最新鋭)	60%
棒線ミル(NS棒線)	30%
厚板ミル	10%

品種・等級

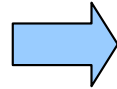
汎用品	80%
高級品	20%





8. 中期的課題として：(1)事業戦略

市況変動に強い
「安定収益構造」を
H20年度までに
構築する



- 1 高級鋼化**
(高級品比率を20%→40%へアップ)
- 2 紐付化**
(紐付取引を45%→65%へアップ)
- 3 顧客ニーズ対応力強化**
(納期・品質・小ロット・加工)



高級品の定義

- 1. オンリーワンの強みを持つ熱延コイル**
 - ①NFG (超微細粒鋼板)
 - ②薄物サイズ
 - ③熱延ミルの高機能材新商品
(耐候性鋼など)
- 2. 品質の要求水準高い棒線ミル製品**
 - ①自動車用CH等の高級CH材
 - ②SC、SCM等の特殊鋼
- 3. 高い製造技術を要する難圧延材**
 - ①ハイカーボン、ハイテンなど

紐付取引の定義

1. 鋼材を使用するユーザーと、
具体的用途や品質要求、取引条件
について、直接協議して取引契約が
結ばれていること
2. 契約先ユーザーの具体的ニーズに
基づき、品質改造、及び新商品
開発等の造り込みができること
3. 関連加工会社向、新日鉄受託を
含む



9. 事業構造改革の計数メルクマール

17年度 現状ベース (％)

	紐付取引			店売	合計
	プロパー	関連・受託	小計		
高級品	6	4	10	9	19
汎用品	12	22	34	47	81
合計	18	26	44	56	100

20

3カ年増減 45 (％)

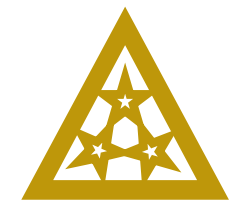
	紐付取引			店売	合計
	プロパー	関連・受託	小計		
高級品	11	11	22	0	22
汎用品	△ 6	3	△ 3	△ 19	△ 22
合計	5	14	19	△ 19	0

20年度 目標ベース (％)

	紐付取引			店売	合計
	プロパー	関連・受託	小計		
高級品	17	15	32	10	42
汎用品	6	26	32	26	58
合計	23	41	64	36	100

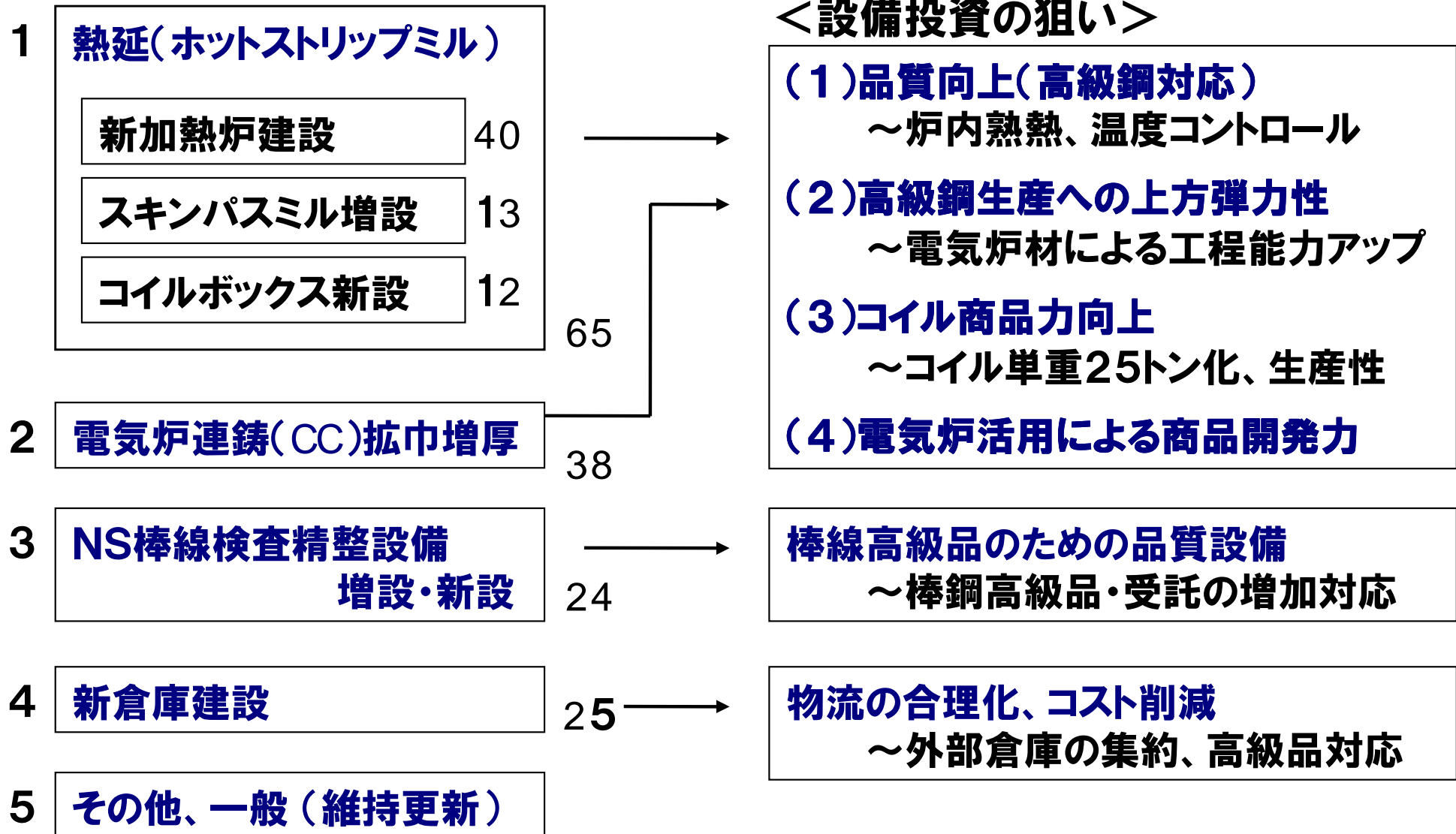
40

65



10. 中期的課題として：(2)設備戦略

狙い：高級品増量対応・生産性アップとコストダウン、物流合理化





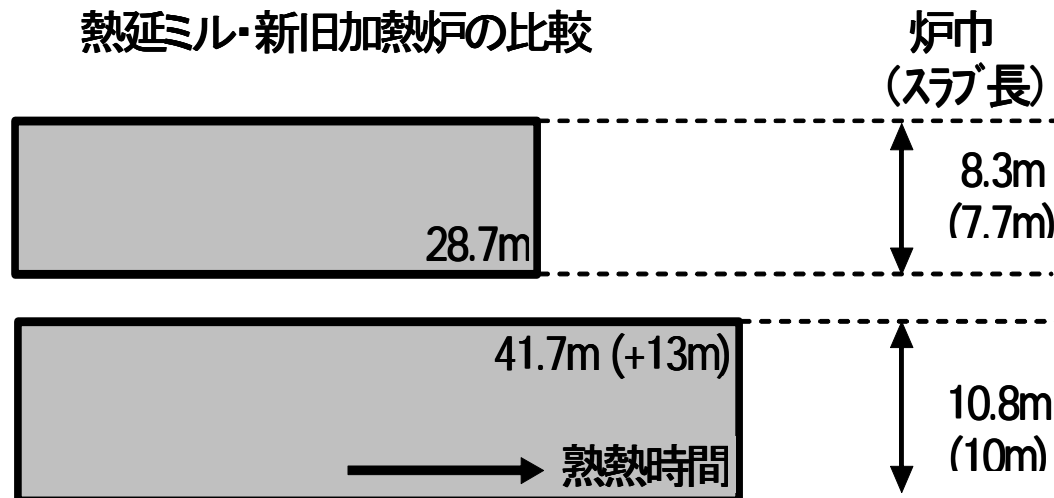
11. 設備戦略：工期と特徴

		18年度				19年度				20年度	
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II
フラット	加熱炉						→				
	スキンパス						→				
	コイルボックス								→		
	電気炉連铸						→				
棒線	棒鋼検査精整				→						
	铸片検査手入						→				
物流	新倉庫					→					→

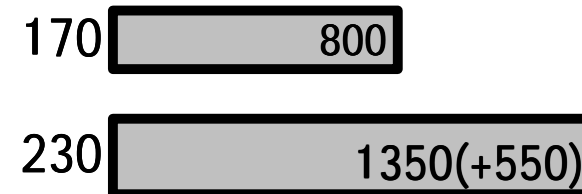
格納能力

約3.5万トン

熱延ミル・新旧加熱炉の比較



電気炉連铸、新旧CCの断面





12. 中期的課題として:

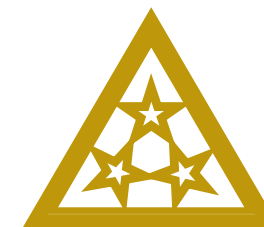
(3) 新日鉄グループとの提携関係の強化

- 1 原料供給 ・ 新日鉄Gより、鉄源の60%を購入 (H14.7 高炉停止より)
・ 新日鉄Gへ、当社コークスを販売
- 2 棒線事業 ・ 共同製造子会社 (株)NSボルテン発足 (H16.8 ハイテンションボルト)
・ 共同製造子会社 (株)NS棒線 発足 (H17.4 中山棒線ミル)
- 3 薄板事業 ・ 中山の熱延・電気炉設備投資をふまえ、
熱延設備による新日鉄からの受託圧延増加
・ 新日鉄G内における鉄源効率活用 ほか
- 4 その他事業 ・ 環境リサイクル面での提携協力
廃プラ焼却処理で中山のコークス炉が協力

H18.3.22
発表分

注)上記連携策の深化のため、株式を双方に追加取得する(20億円)
新日鉄の当社株式所有比率7.1%

13. H20年度 連結経営目標



	H20年度目標	H17年度実績	コメント
売上高	2,000億円程度	1,897億円	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 自社販売分の増販効果は折り込まず
営業利益	170億円程度	152億円	
経常利益	150億円程度	135億円	
当期純利益	70億円程度	82億円	
有利子負債残高	750億円程度	744億円	
(D/Eレシオ)	1.0以下	1.1	
株主資本比率	35%程度	30.6%	

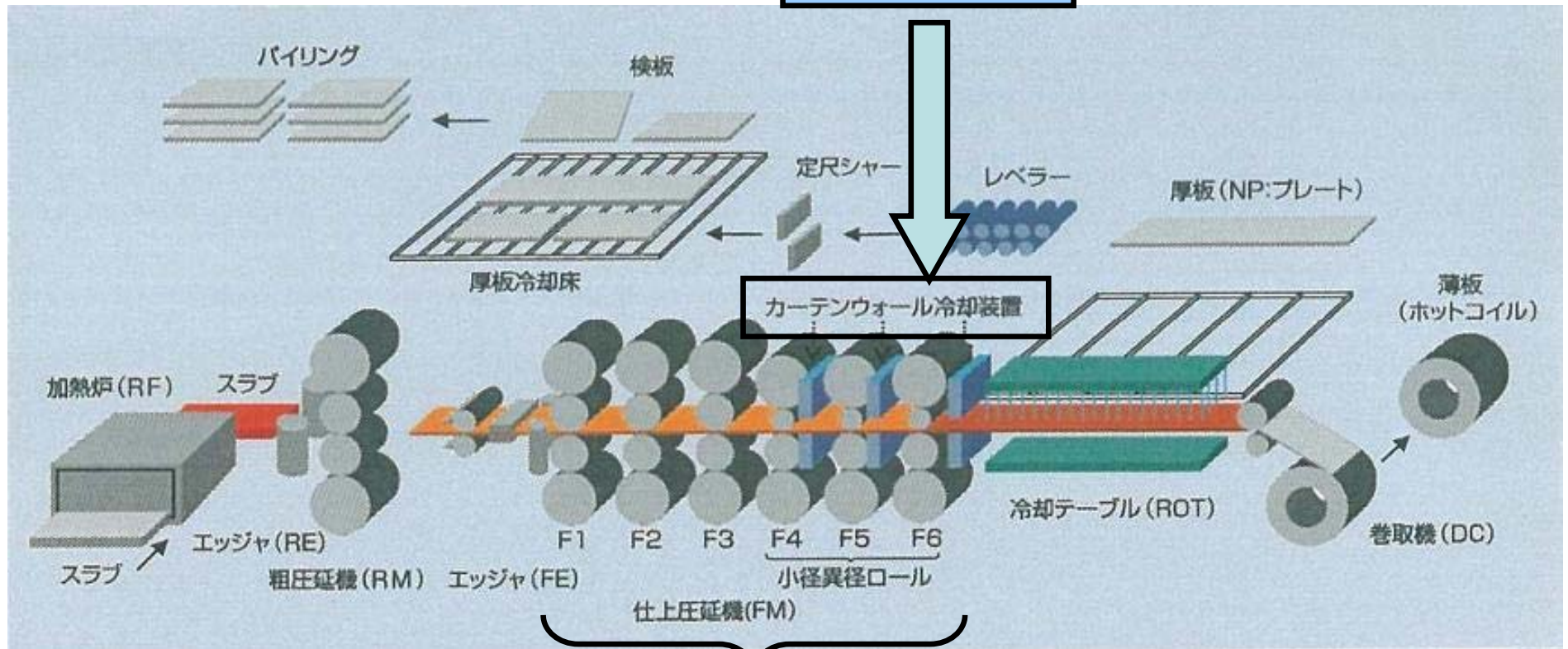
▪ 3カ年の設備投資 250億円

14-1. 新商品 超微細粒鋼板 (NFG)



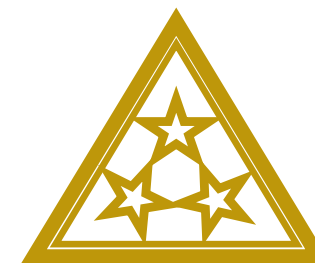
製造設備(熱延工場)

強冷却

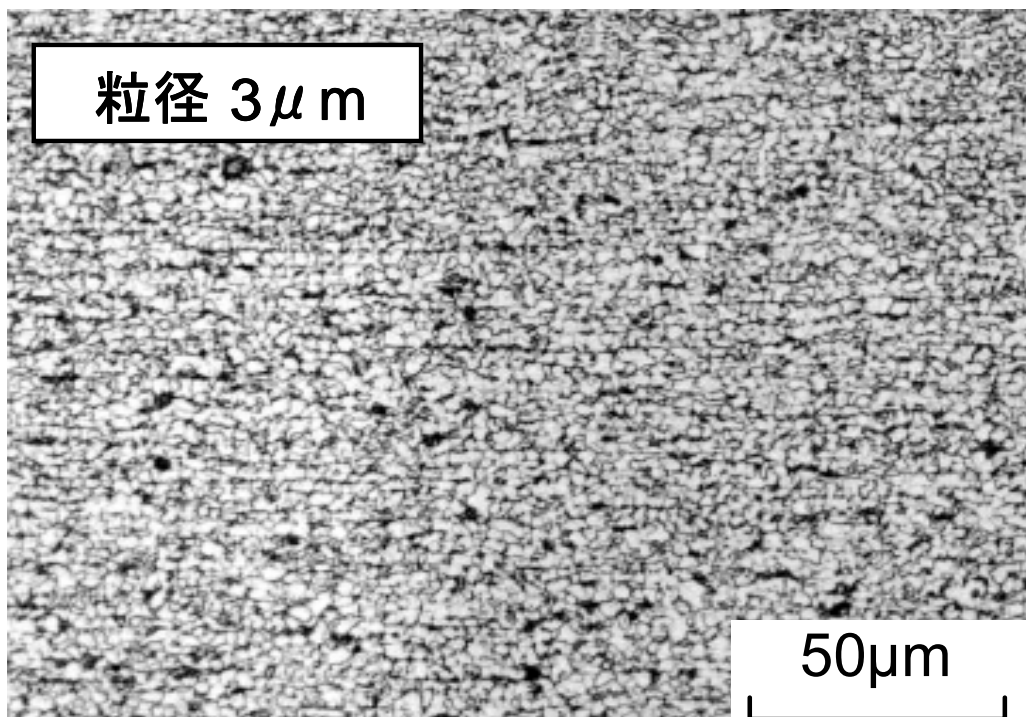
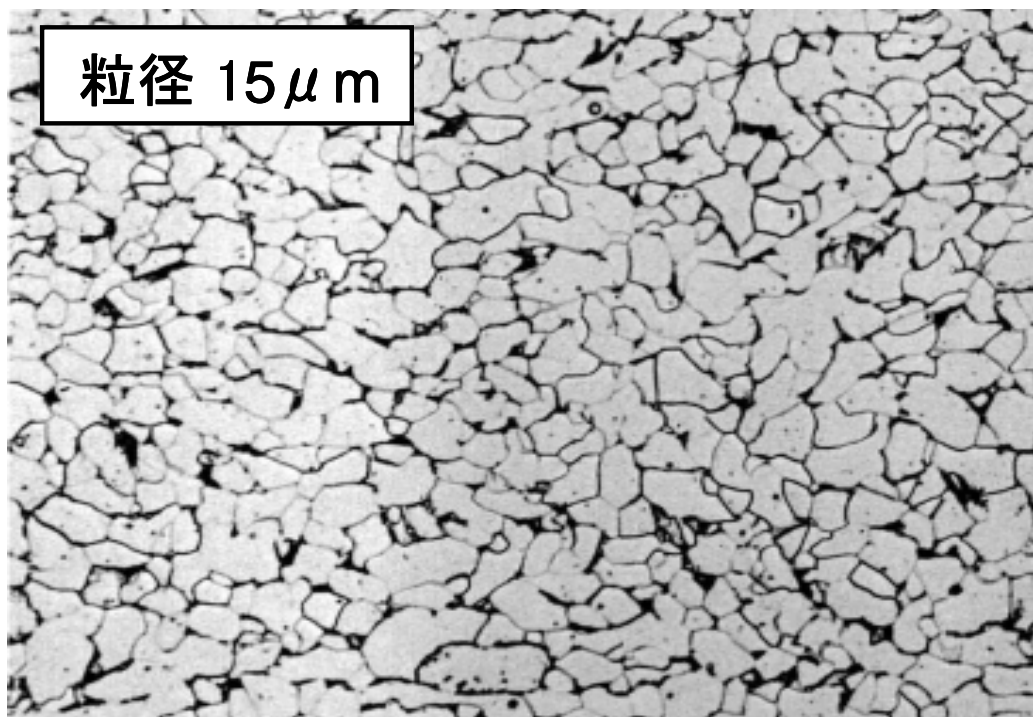


大圧下

14-2. 新商品 NFG の結晶粒径



- ・世界に先駆け、フェライト粒径 $3\mu\text{m}$ を達成



従来の熱延鋼板

超微細粒熱延鋼板

14-3. 新商品 NFG の特長など



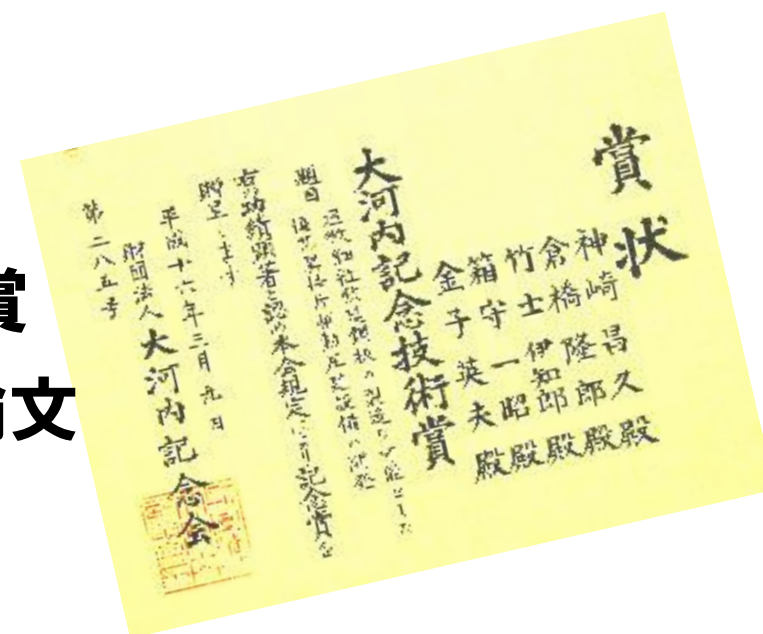
特長

- ① 高強度（破壊、変形しにくい）
- ② 省資源・リサイクル性に優れる
- ③ 高疲労限（金属疲労しにくい）
- ④ 加工性に優れる（厳しい加工にも耐える）
- ⑤ 低温靱性に優れる（氷点下でも粘り強い）

平成16年 3月 大河内記念技術賞 受賞

平成16年12月 フランス鉄鋼協会発表論文
ベストワン賞受賞

平成18年 3月現在 製造特許 国内16件 海外9件 取得済み



15-1. 新規事業計画について

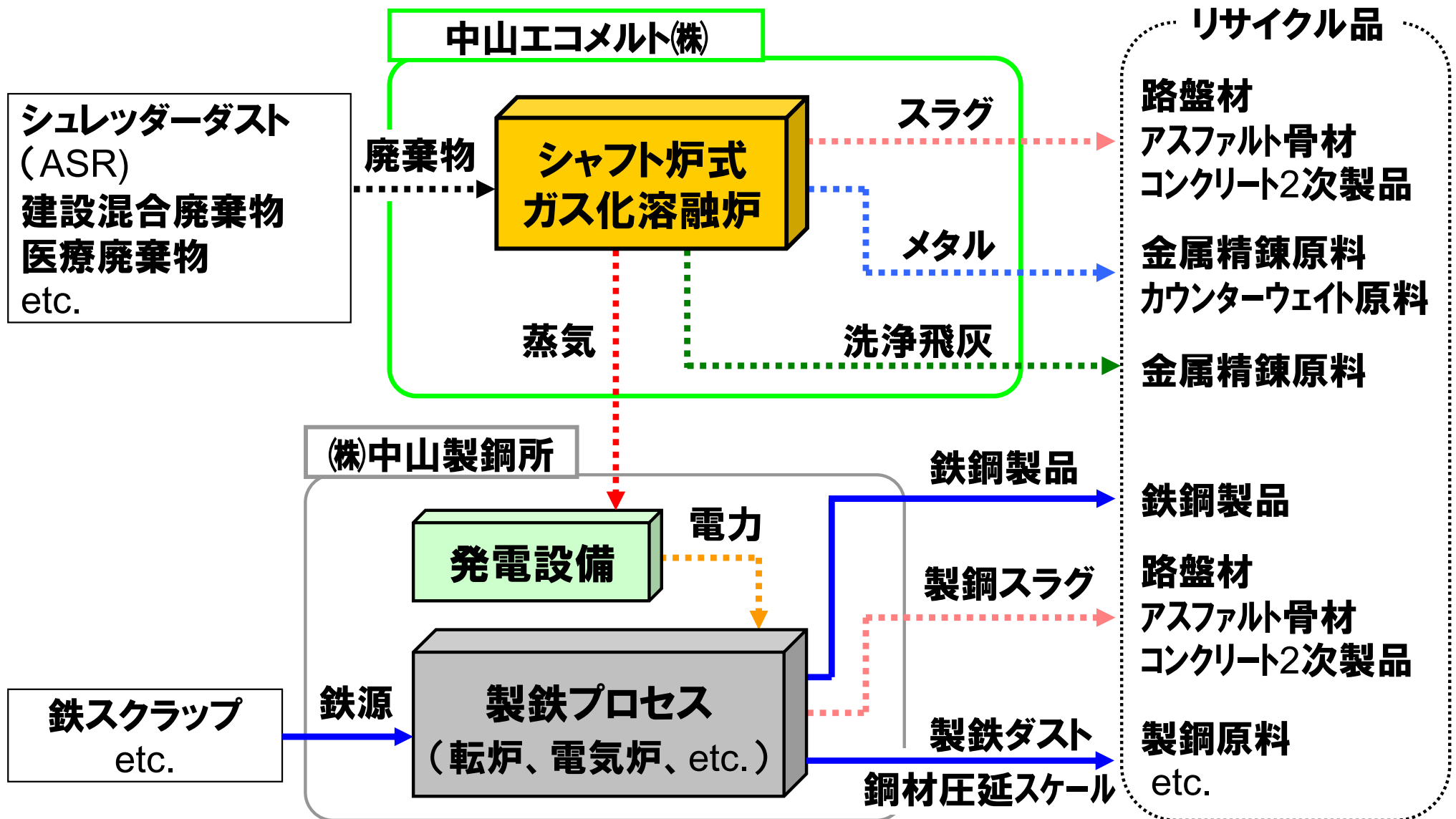


図 (仮称)中山エコメルトリサイクル事業の概念図



15-2. 新規事業の進捗について

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
ガス化溶融炉設備					
(1) 環境アセスメント	準備書	評価書			
(2) 官庁許可申請					
(3) 建設工事					

ガス化溶融炉：平成21年7月～

実操業開始

資金調達については、プロジェクトファイナンス(120億円程度)を検討中

平成18年3月期 決算のご説明

決算- 1 連結 経常損益

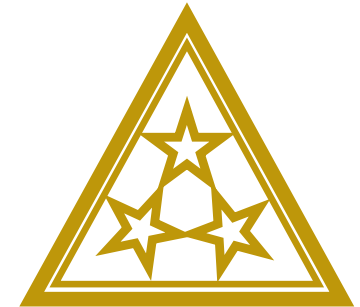
決算- 2 連結 特別損益

決算- 3 連結 貸借対照表

決算- 4 連結 キャッシュ・フロー

決算- 5 連結 財政状態

決算- 6 平成19年3月期 業績予想



決算-1 連結 経常損益

(単位：百万円)

<連結>	17年度	対16年度	
		増減	倍率
売上高	189,757	+ 16,195	1.1
営業損益	15,213	▲ 2,161	0.9
経常損益	13,557	▲ 2,079	0.9
特別損益	▲ 3,498	+ 1,990	0.6
当期損益	8,210	+ 999	1.1



17年度	売上高	営業損益
鉄鋼	173,832	14,175
エンジニアリング	3,303	121
不動産	629	499
化学	11,993	581
消去	-	▲165
連結 合計	189,757	15,213

<単独>	17年度	対16年度	
		増減	倍率
売上高	128,840	+16,054	1.1
営業損益	11,084	▲ 1,661	0.9
経常損益	9,261	▲ 1,528	0.9
特別損益	▲ 3,308	+ 2,216	0.6
当期損益	6,353	+ 1,097	1.2
配当	10円/株	+2円/株	1.3



【単独の内、鉄鋼事業：コークス除く】

<○:増益、×:減益> (億円)

売上高 ○141 (1,003 ⇒ 1,144)

[数量：×55 価格：○196]

経常損益 ×6 (94 ⇒ 88)

●固定費 ×3 ●販価アップ ○197

〔労務費 ×9.3 ●数量減 ×17
減価償却費○7.6 ●変動費アップ ×183
他 ×1.2 (うち、原材料費 ×133)〕

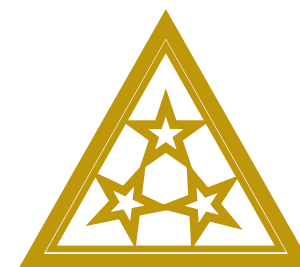
決算－2 連結 特別損益

(単位：百万円)

科 目		17年度
特 別 利 益	投資有価証券売却益	256
	国庫補助金受入益	183
	その他の特別利益	88
	合 計 ①	527
特 別 損 失	固定資産減損損失	1,870
	固定資産除却損	586
	環境対策引当金繰入額	420
	貸倒引当金繰入額	330
	設備解体引当金繰入額	216
	役員退職慰労金	215
	その他の特別損失	388
	合 計 ②	4,025
特別損益 ①－②		▲3,498

● 子会社保有の親会社株式を新日鐵(株)殿へ売却

● 遊休資産(土地1,060、建物346、機械装置他463)を回収可能価額まで減額



決算-3 連結 貸借対照表

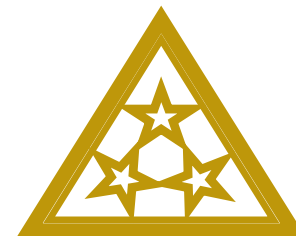
科目	平成18年3月期		増減 要因
	実績	前年度末 増減	
流動資産	78,520	+49	
現預金	6,337	▲ 372	
売掛債権	36,448	▲ 8,757	手形流動化 (▲6,400)
棚卸資産	31,898	+ 6,261	鋼片備蓄、 石炭等の 価格アップ
その他	3,835	+ 2,918	
固定資産	139,949	▲ 297	
有形・無形	128,472	▲ 5,764	<有形・無形> 償却 ▲6,619 売却 ▲2,913 (NS棒線ほか) 減損 ▲1,870
投資 他	11,476	+ 5,466	投資 +6,068 他
繰延資産	-	▲ 2	<投資> 株購入 3,585 他
資産 計	218,469	▲ 250	

科目	平成18年3月期		増減 要因
	実績	前年度末 増減	
流動負債	65,905	▲15,548	
買掛債務	27,733	▲512	
借入金・社債	33,423	▲13,568	
その他	4,748	▲1,467	
固定負債	70,824	+3,132	
借入金・社債	41,020	+2,683	有利子 負債 ▲10,885
引当金 等	10,147	▲111	
繰延税金負債	19,656	+ 561	
負債 計	136,729	▲12,416	
少数株主持分	14,878	+1,642	
資本金	15,538	+1,434	増資 +2,260
資本剰余金	10,182	+1,556	CB転換 +600他
利益剰余金	23,802	+7,531	当期 純利益 +8,210
土地再評価差額	15,775	▲1,042	配当金 ▲1,211 他
有価証券差額	1,840	+ 984	
自己株式	▲ 278	+ 58	
資本 計	66,861	+10,523	
負債・少数株主・ 資本 合計	218,469	▲250	

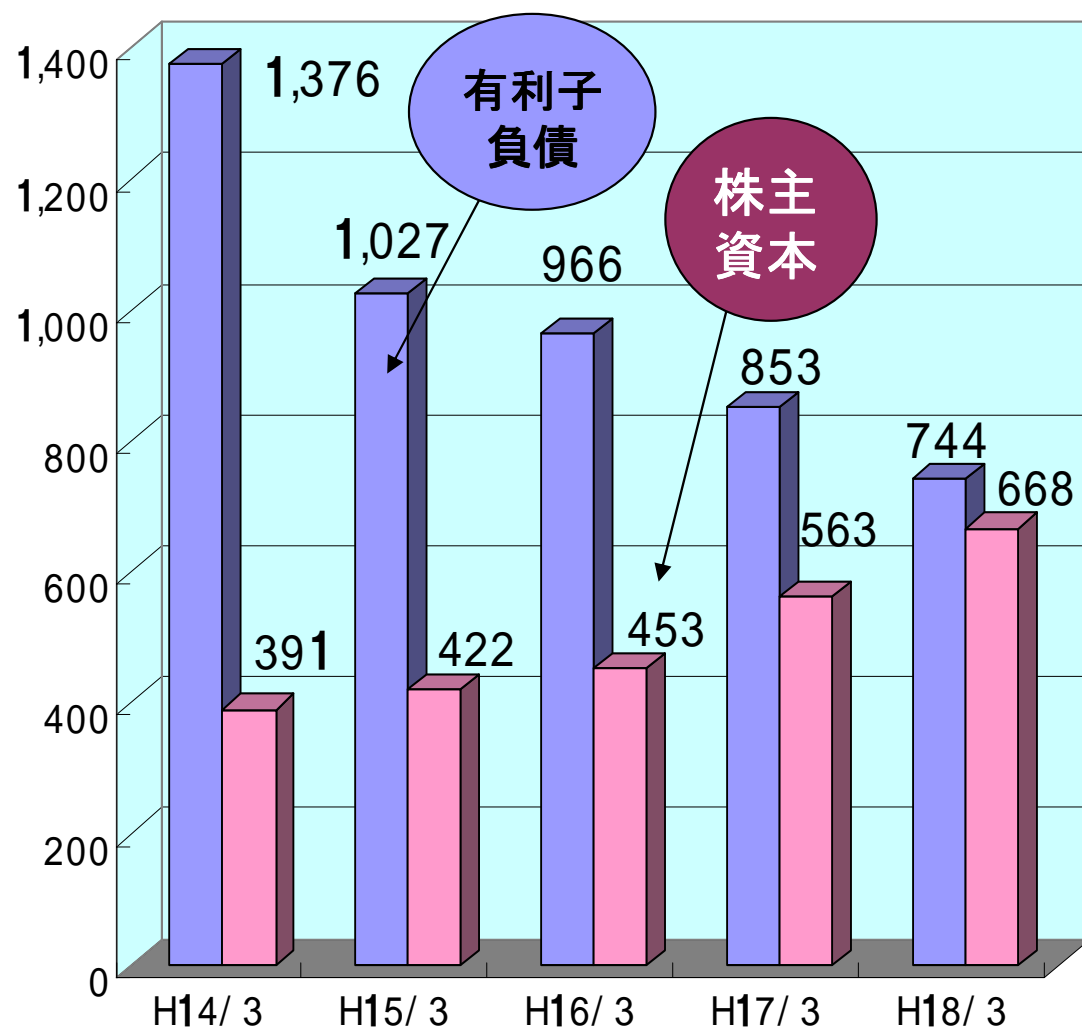
決算－4 連結 キャッシュ・フロー

	平成18年3月期	平成17年3月期	前年度比
営業活動	15,218	9,134	+ 6,084
投資活動	▲ 5,343	▲ 3,749	▲ 1,594
フリー・キャッシュ・フロー	9,875	5,385	+ 4,490
現預金圧縮	372	2,054	▲ 1,682
有利子負債 返済等 原資	10,247	7,438	▲ 2,809
財務活動	▲ 10,247	▲ 7,438	+ 2,809
(内、配当金支払)	▲ 1,207	▲ 626	▲ 581
(内、有利子負債返済)	① ▲ 10,285	▲ 7,700	▲ 2,584
転換社債発行⇒転換	② ▲ 600	▲ 2,400	▲ 1,800
その他	-	▲ 1,270	▲ 1,270
期末有利子負債残高	74,443	85,328	①+② ▲ 10,885

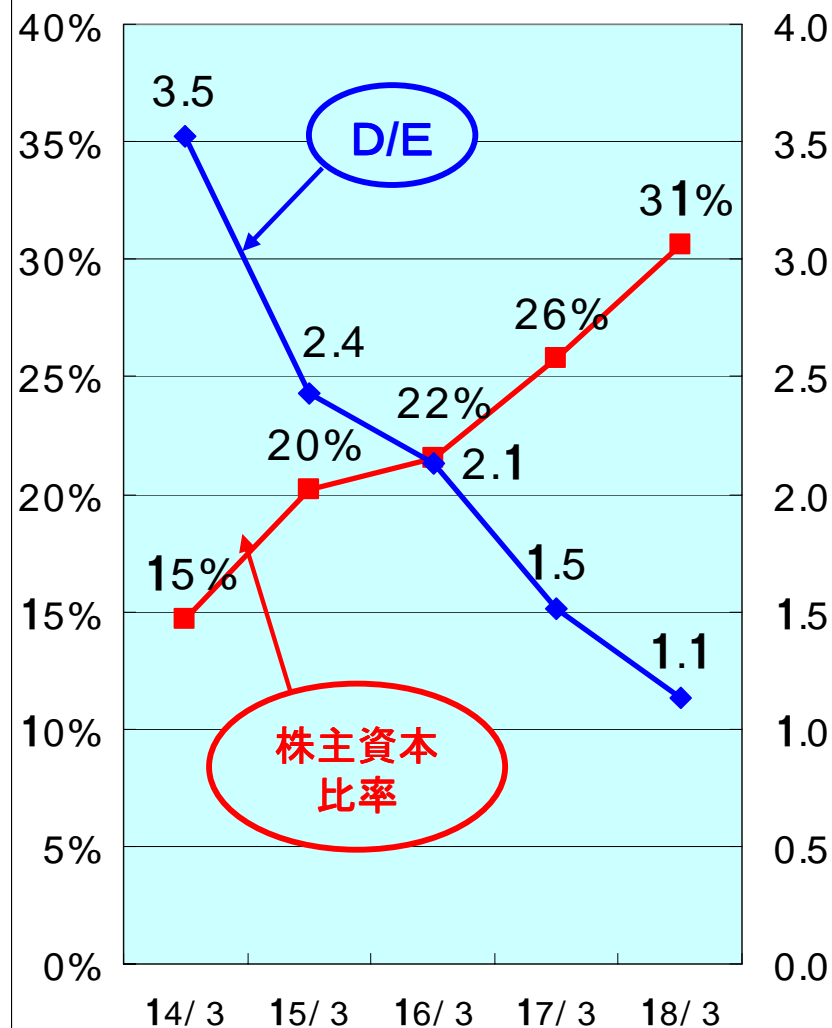
決算－5 連結 財政状態



有利子負債と株主資本の推移



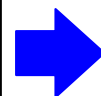
D/Eレシオと株主資本比率の推移



決算－6 平成19年3月期 業績予想

(単位：百万円)

<連結>	18年度	対17年度	
		増減	倍率
売上高	190,000	+240	1.0
営業損益	8,000	▲7,210	0.5
経常損益	6,500	▲7,050	0.5
特別損益	▲600	+2,900	0.2
当期損益	4,500	▲3,710	0.5



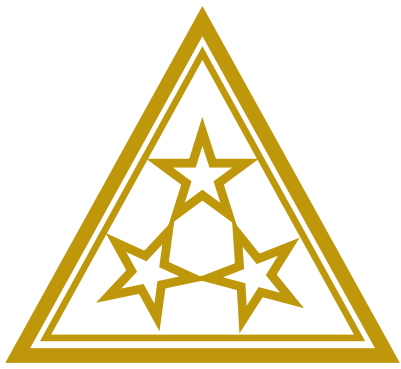
18年度	売上高	営業損益
鉄鋼	174,000	7,100
エンジニアリング	4,300	120
不動産	1,200	420
化学	12,300	420
消去	▲1,800	▲60
連結 合計	190,000	8,000

<単独>	18年度	対17年度	
		増減	倍率
売上高	130,000	+1,160	1.0
営業損益	6,000	▲5,080	0.5
経常損益	4,500	▲4,760	0.5
特別損益	▲600	+2,700	0.2
当期損益	3,500	▲2,850	0.6



鋼材	15年度	16年度	17年度	18年度
売上高 (億円)	687	997	1,091	1,090
販売量 (千トン)	1,656	1,756	1,591	1,670
販売価 (千円/トン)	41.5	56.8	68.5	65.2

配当	6円/株	10円/株	
----	------	-------	--



平成18年3月期

決算説明会

株式会社 中山製鋼所

NAKAYAMA STEEL WORKS,LTD.

平成18年5月15日